

## 目標達成計画

作成日: 平成 29年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職員の言葉使いに気になる事があると家族アンケートより指摘があった。又、利用者様に対して友達と話すような話し方をしたり、大きな声で話したり命令口調になる事が時々見られている。	利用者様へ友達と接するような話し方をするのはなく、それぞれの特性に応じて話しかけ方を工夫し、本人を尊重した丁寧な言葉使いをする。又、言葉かけや話し方が気になる場合は職員同士で注意し合う。	利用者様それぞれの特性に応じ、耳が聞こえづらい方には大きな声で話しかけるのではなく傍によって耳元で話しかけたり、ゆっくりと話しかける。友達と話すような話し方や命令口調にならないよう気がけ、言葉使いが悪かったり、話し方が気になる場合は気付いた時に職員がお互いに注意し合い利用者様が不快に思われないような対応を行う。	6ヶ月
2	48	以前は利用者様全員でレクリエーション、貼り絵、塗り絵、計算問題等参加されていたが、介護度の違いや理解力の違いにより、今は理解するのが難しかったり、初めからしないと参加されない方が増えてきた。	利用者様の個別性に応じて参加ができるようなレクリエーションを職員が随時検討し話し合う。理解力がある人には本人がしたいことを聞き提供したり、できない方でもできそうな事を検討したり、個人個人に合わせたレクリエーションを提供する事で認知症の進行予防ができたり気分転換を図ることができる。	利用者様それぞれの理解力に応じて何ができるのか職員同士随時話し合いを行う。又以前より行っていたレクリエーションを見直しそれを工夫できないか検討したり、できない方は職員と一緒に参加したり、介助しながら参加をする事で、利用者様全員が参加でき楽しみを持ち、利用者様同士の交流にもつながるような工夫をする。	12ヶ月
3	49	利用者様全員で参加していた遠方への外出支援も年を追うごとに体力の低下や下肢筋力の低下にて全員の参加ができなくなって、外出の機会も減ってきた。	体力の低下や下肢筋力が今以上に進行しないように毎日体操や上肢下肢運動、歩行運動に参加してもらい体力維持や下肢筋力の維持を図る。又、介助が必要な利用者様には職員が介助しながら上肢下肢運動等行い拘縮予防に努める。天気の良い日は外へ出て散歩をしたり日光浴を行ったり、ドライブや買物の支援を行う。	毎日体操や上肢下肢運動、歩行運動へ参加してもらう。利用者様の介護度に応じて、個別に対応し介助が必要な方は職員が介助しながら上肢下肢運動へ参加してもらい、体力維持や下肢筋力維持、拘縮予防に努める。天気の良い日は庭先へ出て散歩をしたり日光浴をしたり、近所へ散歩へ出かけたりドライブに行き四季の花々や景色を楽しんだり、買い物へ行きほしい物を購入したりして気分転換を行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。